

第4回 静岡市清水地区LRT導入検討協議会

- 1 日 時 平成25年7月24日(水) 14時00分～16時00分
- 2 場 所 清水庁舎 3階 313会議室
- 3 出席者 (委員) 川口会長、遠藤委員、小川委員、水島委員、松本委員、
花井委員、笠井委員、大井委員、齋藤委員、
新聞委員(代理:小坂)、仲田委員
(関係者) 松本委員、古屋委員、
村松委員(代理:望月)、鈴木委員(代理:宮原)
(事務局) 小林交通政策担当部長、大滝参与兼交通政策課長、
吉川統括副主幹、竹下主査、鏡味主任技師
- 欠席者 (委員) 勝山委員
- 5 議 題 LRT導入に向けた整備効果と実現性について
- 6 会議内容
(1) 開会
(2) 開会あいさつ
(3) 議題説明
(4) 意見交換
(5) 報告事項
(6) 閉会

○議題説明

(1) LRT導入に向けた整備効果と実現性について

以下の事項を事務局より説明

第3回協議会の指摘事項と対応(案)

「静岡型コンパクトシティ」の実現に向けた公共交通の整備及びまちづくりの推進

- ・静岡市の目指す公共交通ネットワーク
- ・各都心における導入の目的
- ・各ルートの概要について
- ・導入効果について
- ・各ルートの概算事業費
- ・事業スキームについて
- ・清水ルートの課題と対応
- ・関連施策について
- ・清水ルートイメージパース

○意見交換

<ルートについて>

- ・「JR 清水駅西口ルートも引き続き検討していく」とは、どのような検討をするのか。
- ・清水橋ルートは、架け替えではなく嵩上げで対応できるのではないか。

<静岡鉄道との結節について>

- ・新清水駅との相互乗入れは難しいということだが、静岡鉄道が是非やりたいというビジョンをはっきりさせればよいのではないか。

<概算事業費について>

- ・施設の維持管理費は含まれているのか。限られた財源のなかで施設をどのように維持管理していくかという議論もすべき。

<需要予測について>

- ・需要の想定について、資料で示したケース以外で考えられるものはないか。例えば、三保松原の観光の需要予測が増えそうなケースを考慮するなど、需要確保に向けての数値をもう少し精査してほしい。

<日の出地区の開発について>

- ・清水都心の不動産価値を高めるためにも、ウォーターフロントの活性化について引き続き検討していくべき。また日の出に人を呼び込むために、日の出の開発を LRT 整備と並行して早く進めるべき。
- ・日の出地区の施設には指定管理者が入っているが、利用客を集めるのは大変である。是非民間と行政が一緒になって取り組んでほしい。
- ・市は民活に期待しているが、民間が儲かることをリアルな形で見せないと、民活は刺激できない。港湾エリアの民間企業が業態を変えるリスクを伴ってやってもいいというきっかけが LRT であればインセンティブになるが、その辺りの説得力が弱い。民活に期待しすぎては良くない。

<三保松原について>

- ・日の出地区から海上交通を利用した三保松原へのアクセスも展開が図っていけるのではないか。
- ・世界文化遺産に登録された三保松原は今後開発の余地がある。清水のシンボルとして三保松原の開発について皆で取り組むことができないか。

<便益分析について>

- ・総括表の数値が大枠として動くわけだから、これを精査し、ある程度考えられる範囲内で熟慮して数値を出してもらいたい。

<清水ルートの課題について>

- ・清水ルートの 5 つの課題のハードルは本当に越えられるのか。